

(I) 狛江プレーパーク 岡野洋子氏の回答

質 問	回 答
【あそびについて】	
今好きな遊びは何ですか。	再生野菜を育てること。
一緒に電子ゲームをすることはありますか。	たまにありますが、ゲームに詳しくないのでいつも負けます。
【子どもとのかかわり方】	
子どもが調子によって暴言を吐くとき、どう対処しますか。	<p>まずはその前後関係を知ろうとします。</p> <p>なぜその子が暴言を吐いたのか、その理由を探り、暴言の背景に合わせて動きます。</p> <p>人を傷つけるほどの言葉を発するという事は、その子自身が傷ついている場合もあるからです。</p> <p>傷ついた結果の暴言ならば、その暴言を吐いた子に「どうしたの？大丈夫？」と声をかけたいです。</p> <p>もちろん暴言を吐かれて傷ついた子がいればその子にも。</p> <p>でも、コミュニケーションの一環で、冗談で「バカ」と言っているだけならばその雰囲気に合わせて対応をしますし、私自身が嫌だなと感じる気持ちがあればそれを伝える時もあります。なのでケースバイケースですが、大事にしたいのは、子ども側の理由や気持ちを知ろうとすることかなと思います。</p>
子どもがけんかを始めたらどうしますか。	<p>子ども同士で表現しあい折り合いをつけられるのが一番よいと思うので、基本的には見守りますが、関係性が固定化し、いじめのようになっている場合や、一方は戦意喪失しているのもう一方はしかけ続けている場合などは介入が必要だと思います。そして、本人にとって納得いかない結果に終わりフォローが必要な時に、頼ってもらえる関係性を築けるよう普段から意識しています。</p>
子どもとの信頼関係を築く上で大切にしていること。	<p>その子のニーズに合わせて関わること。</p> <p>話を聞いてほしい子、友達同士で思い切り遊びたいから放っておいてほしい子、物作りをしたいから色々な道具を貸してほしい子…様々な子が様々な理由で来るので、まずはその子が何を求めてここにきているのかを見立てて、見立てたものに合わせた対応を大切にしています。</p> <p>ただ、距離感の濃淡はあっても、一人ひとりに対して肯定的なまなざしを向けるよう意識しています。どの子に</p>

	も、今ここに居ることを歓迎されていると感じてほしいからです。
【プレイリーダーとして】	
自分自身が今やりたくない遊びに誘われたときの対応。	<p>「今私は他のことをやりたいんだ」と素直に伝えることが多いかなと思います。</p> <p>自分の素直な気持ちを伝えることで生まれる信頼関係もあるかなと思うからです。</p> <p>ただ、相手やタイミング、子どもの誘う理由によっては、私自身の気持ちが「やりたくない」から「やろう」に変わることもあります。例えば私は鬼ごっこが苦手であまりやりたいと思いませんが、学校にあまり友達のいなくて寂しい思いをしている子から誘われたら、今一緒に鬼ごっこをやれば他の子との交流のきっかけになるかもしれないと思うと、鬼ごっこは好きではないけれど、今この子と鬼ごっこをしたい、この子からの誘いを逃したくないという気持ちになることが多いです。</p>
【岡野さんへ】	
こまえプレーパークに来る子どもの年齢	0～18歳まで多様に来ますが、多い年齢層としては0～12歳です。中高生は、小さな頃からの常連さんが時間のあるときに立ち寄り話をしたり、年下の子と関わったりという雰囲気です。常設オープンして4年なので、これから年数を経ることで中高生の利用者も多くなってくるかなと思います。
遊びと危険は隣りあわせ、ケガしそうだからやめようということはないですか。	<p>危険を管理し、子どもの発達に有益な危険のみを残した場づくりをすることで、子どもの「危険と隣り合わせの遊び」を見守れるようにしています。例えば、その子が初めて挑戦する高さからのジャンプは、周りからすると危ないように見えても、本人の中で危なさをわかった上で挑戦する場合なら、心と身体の準備が整っているからこそその挑戦であることが殆どだと感じています。なので、最後の飛ぶ瞬間まで本人が飛ぶかどうかを自分で悩み決められるよう、その時間を邪魔しないように配慮します（例：話しかけない、飛ぶことをせかす周囲の言葉があれば介入する等）。その結果飛ぶことができた時は、本人にとっての自信につながり、こういった経験を積み重ねることで身体能力も高まっていくと考えています。一方、着地しようとする地面に鋭利な物（例：ガラス片やスコップ等）があれば取り除くなど、本人が挑戦したい危険</p>

	<p>(この場合高いところからジャンプする)と関係のない危険は取り除くようにします。また、本人の力量やその日のコンディションによっては介入する場面もあります。ナイフの扱いに慣れていない子には軍手をつけることを勧めたり、隣で一緒に何かをしながら必要に応じてフォローできるようにしたりするなどです。本当に場合によっては「ごめん今日はちょっとやめて」と言わざるを得ない時もありますが、ベースは、その子の挑戦を見守れる環境を整える方向に向かって動くことが大切だと考えています。危険を2種類に分けて考え管理することと、常駐しているからこそわかる一人ひとりに合わせた対応で子どもたちの挑戦に寄り添える環境を整えています。</p>
<p>自由な遊びを謳歌している子どもたちを否定的にみる大人はいますか。どう対応していますか。</p>	<p>保護者の方は、HP や口コミ等でプレーパークがどういう場なのかをわかった上で来る方が多いので、否定的に見る方は少ないように感じています。ただ、初めて来た方にとっては予想を超える泥汚れになったりと戸惑うことも多いようです。その戸惑いが、子どもへの「これ以上やめて」につながることもあります。なので、保護者の方の戸惑いをフォローできるような関わり、場づくりを意識しています(例:泥汚れに戸惑っているなら話しかけて気持ちを聞いたり、他の子の例を話したり、服を洗うのを手伝ったり、プレバ服を決めておくと汚れも気にならなくなるなどのアイデアを紹介したり、保護者の方が困っていることに合わせて関わります)。保護者の方の戸惑いに寄り添うことで、子どもが自由に遊ぶ姿を安心して見守れる気持ちになれるよう関わることを意識しています。</p> <p>また、わが子の遊びだけでなく、よその年上の子や、やんちゃな子たちの激しい遊びに戸惑う親の様子があれば、雑談をするなかで、保護者の方の不安な気持ちを話していただいたり、その子が発散したい理由を支障のない範囲で話したりして、戸惑いの気持ちを受け止めつつ子どもたちの行動を理解してもらえよう関わります。</p> <p>また、普段から同じ場に居る利用者同士が交流できるきっかけづくりを意識することで利用者同士に関わりが生まれ、「なんであんな危ないことするの!？」という否定的なまなざしではなく「あの子あんなに暴れてどうした</p>

	<p>んだらう？何かあったのかな？」という思いやりのまなざしを向けてくれる大人の常連利用者も少しずつ増えてきました。</p> <p>地域の方にも温かく見守っていただけるよう、こちらから積極的に話しかけて、心配なことは話してもらえるようにしたり、必要に応じて場として気を付けていることを話すことを心掛けています。また、子どもの遊びとは関係のない雑談もたくさんします。そういった積み重ねで、温かく見守ってくださっている方が多いように感じています。</p>
山も元に戻すのか。	山はそのままで大丈夫です

(II) ののプレ 山本祐輔氏の回答

質 問	回 答
【あそびについて】	
今好きな遊びは何ですか。	とくになし
最近の遊びでとても楽しかったこと。	ののプレにはカップルが来ないので、小中学生たちと、ハートマークを掘った2人掛けの椅子をつくり、カップルシートとした。
失敗続きだけどいつかは成功したい遊び。	とくになし
一緒に電子ゲームをすることはありますか。	時々やらせてもらうときはあります。自分のスマホに子どもがゲームをダウンロードしたこともあります。
【子どもとのかかわり方】	
子どもが調子にのって暴言を吐くとき、どう対処しますか。	<p>単に調子に乗って？と見れば、嫌な気持ちになるんだけど、と伝えることもあると思います。その子によって試していたり理由もあるはずなので真正面から受け止めないようにしたり。よくないが、頭にきて言い返してしまうこともあります。</p> <p>最近の経験としては、常連の女の子たちとコミュニケーションとりづらくなり、「クズ」など暴言もあった。それに関して嫌だという気持ちも伝えたのですが、彼女たちがブランコを押して欲しいといつも言ってきているのに、自分は常連の子たちだから押さないと決めつけ、「押して～」に対する返事も理由も言わず「自分でやんなよ！」とかふざけた態度で返したりしていたことに気づきました。</p> <p>彼女たちにとってはそこがコミュニケーションの入り口だったのだと思います。</p>

	<p>その入り口のところでやりとりができないから、他のやりとりもうまくいかない。どうしても対立的になる。</p> <p>ただブランコが押してほしいのではなく、自分に押し欲しいのだと理解して、「じゃあ一回ずつ押してから、他の準備するね、あとは自分たちでもできるよね」というやりとりをしてブランコを押すと、そのあとは彼女たちととても普通にやりとりができるようになりました。</p> <p>なぜ子どもがその行動をするのか、よく考えるとはこういうことなのかなと感じました。</p>
子どもがけんかを始めたらどうしますか。	<p>けんかに入らず、遠くから見ているという判断をしたこともあります。失敗だったと思います。</p> <p>遊び場にいる大人として、もめ事が遊び場内で起こっているなら、気にかける、声をかける、というのは当たり前だと考えています。</p>
肯定的なまなざしをもてなかったエピソード。	<p>肯定⇔否定で捉えた場合、否定的なエピソードは沢山あるんだと思いますが、そのように考えたことはありません。</p>
言葉かけを失敗したときの修復方法。	<p>失敗したと思って何回も言い直したり、伝え直すことが多いです。それ以外解決法思いつかず。</p>
子どもとの信頼関係を築く上で大切にしていること。	<p>主導権を子どもに渡すような会話をしていて、実際は誘導している、というのに気をつけています。</p>
子どもとの間合いについて。遊び相手？何かを教える人？見守る人？	<p>遊び場を歩いていて、「一緒にやらない？」「これやってもいいよ」と子どもに声をかけられるのは遊び場にいる大人として価値のあることで、遊び相手になると思ってもらうことは重要と思います。</p>
自分が子どもたちに何かしたことでその子に変化があったような体験があれば教えてほしい。	<p>遊び場にいて来る子たちと関わっている以上、常に子どもたちにすごく影響を与えていて、変化を与えていると思います。</p>
子どものやりたい気持ちをバックアップするときどこまで介入するか、基準はありますか。	<p>本当に悩むところです。基準はないといけない気持ちになります。あくまで「やりたい気持ち」のバックアップで、ゴールを設定したり、「ちゃんとやる」必要はないかと思いますが、ある程度介入するから続いたり、残せるものになったり、他の子が入れる等などの欲目がでて来るのだと思い、、、その子がやりたいより、自分がやりたい、の方が理にかなってるのかと感じます。</p>
子どものありのまま、やりたいことをどこまで許しますか。	<p>ののプレで、たとえば雨の日にどろどろになった靴で机に乗るな、と言います。晴れの日はいけません。そういうことが沢山あり、スタッフによって違ったりする。ス</p>

	<p>スタッフも子どもも場を大切にするという共通の思いがあれば、みんなで考え意見を交換できるというのいいのかと思います。大切な場であると思ってくれる子どもや大人がどれだけいてくれるか、増やせるか？</p>
危険な遊びをしているときの注意のしかた。	<p>危ないと思ったら声をかけておく。自分はどこがどう危ないと思うか。自分の予測や経験をもとに。声をかけるかかけないかという判断もあるが、危険と判断すればまず声はかける。</p>
やってはいけないことの基準はありますか。	<p>プレーパークむさしのでは「他のひとが嫌な思いをすることは遊びではない」という基準があり、また各現場でハザードや苦情などの観点からできないことが決まっています。</p>
「あぶない」との付き合い方。	<p>やはり気になったり、危険があると思ったら声に出すこと、他の人と相談すること。</p>
汚れた服で帰ると親に怒られそうな場合はどう対処する？	<p>よく気にするところです。特に保護者の顔が見えない子や、あまり見かけない子には声をかけるようにしています。着替えを貸したり、タオルを貸すこともあります。</p>
【プレイリーダーとして】	
今日は遊びの気分でない、という時はありますか。どうやって気分を盛り上げますか。	<p>やらなければいけない作業もあるし、盛り上がりすぎない遊びもあり、ある程度元気であればスタッフが盛り上がりすぎてなくてもよいかと思います。 プレーパークむさしのはスタッフが盛り上げることに對してはキビシイです。</p>
自分自身が今やりたくない遊びに誘われたときの対応。	<p>理由も込みで、やりたくない気持ちを伝える。</p>
プレイリーダーの育成方法について、どのようにしてほしいですか。	<p>木工技術、ロープワーク、危機管理など別にして、子どもとの関わりかたについては肝心要の部分であるにもかかわらず、評価や成長が見えにくい部分だと思っています。しかし現場の質や、来場する子どもの立場を考えるならば、ある程度の共通認識と指針があるべきだと思います。プレーパークむさしでは昨年、プレイリーダーが中心となってガイドラインを作成しました。現場で働く人間は何ができ、どうあるべきかというところをまずは言語化しました。振り返りや評価の基準となるものです。</p>
子どもに窮屈な環境を与える大人(例えば親)に接する場合、対応に工夫していますか。	<p>現場での保護者への声かけから、苦情対応、通信物の発行まで、常に遊び場を理解し、味方になってくれる大人探しとして、まさにスタッフの働きとして最重要の部分だと思っています。</p>

手に負えない、と思った利用者（子ども、大人）は何人いましたか。	もちろんだめですが、手に負えていなかったこと沢山ありました。
プレイリーダー1人について子どもは何人ですか。最適な比率は？	考えたことがなかったです。最適というか、場作りにもよるが30人くらいまでなら1人で対応できるのではないかな。
【さまざまな子への対応】	
居場所のない子どもに対しての思い。	プレーパーク、もしくは支援事業が居場所になればという気持ちで接する。
プレイパークに来られない子どもはどんな子ども？	汚れるから危ないから行くなと言われていた子は多い印象。汚れず危なくなく過ごせることアピール。
居場所を見つけられない子どもに対して働きかけは必要か。必要ならどんな働きかけができるのか。働きかけが不要ならなぜ不要か。	大人の関わり方、場作り。夕方閉園してから居られるようにする、大人と距離をもってたまる場所をつくる。などなど。
【プレイパークについて】	
有料プレイパークはありますか？	運営の方法としてはありだと思います。これない・こない子は沢山いると思います。
子どもたちが来やすくなる工夫はしているか。	ハード面では、入りにくさに対して看板やメッセージなど。ソフト面ではスタッフが内輪感を出さないように気をつけ、やって来た子に声をかける。気にかける。
どんなPRをしているか。	ガイドなど各種配布物のほか、HP、ブログ、新しく遊びに来る子を増やすために各種イベントなど実施。
遊びに使う道具（ナイロンロープ、シートなど）は子どものニーズに合わせて買うのか、プレイリーダーが選ぶのか。	ニーズに合わせてスタッフが選びます。
【その他】	
子どもの「健全育成」という言葉をどう思いますか。	プレーパークで健全育成を！という言葉にすると、ちぐはぐな印象です。
人はどうして生きていかなければならないの？（5歳児から聞かれた）	生きていかなければいけないとだれかに言われたのでしょうか。生まれたかったからこの世に生まれてきたのだと思うけど。
「自由」とは？（小2男子から聞かれた）	やでもくでもないのがじゆうだ！
【山本さんへ】	
子どもはありのままを許してもらえる場所が必要だが、大人はありのままにいることが望ましいわけではない、という話が興味深い。	大人もありのまま子どもがありのままにいられる場をつくればそれも素晴らしいことと思います。しかし、子どもは常に大人に与えられている存在であるということ前提にした視点は大切に思います。
雨の中のたいまつは消えずにどれくらい走りましたか。	すべては消えずに園内を一周してまた火にくべていた記憶があります。

<p>こどものやりたいことを捻じ曲げて反省したというエピソードを聞いて。ティーパーティーをしたかった子は山ちゃんのアイディアを聞いてイメージが膨らんだり、一緒にできる喜びを感じたのではと思いました。その後ティーパーティーはどうになりましたか。</p>	<p>逆にその視点は持てませんでした！たしかにマイナスの面だけではないのだと思います。 ティーパーティーはその翌週に開催されました。お菓子と飲み物を持ち寄りしてスタッフもいただきました。 最近その子発案で持ち寄りカレーをしました。その時もカレーを誰が食べれるか、でその子が悩んでおり、スタッフがこうこうこういうのは？と先回りをしてしまい、多少モメごとが起きてもいいから、その子がどうするか見守っていてよかったのでは？という振り返りをしました。</p>
<p>プレイリーダーをやっている中で、一番困ったことは何ですか。</p>	<p>困ったことばかりでしたが、当然ですが悩むのは、グリーゾーンの遊びにどう向き合うか。 例えば掘って欲しくない場所で穴掘りが盛り上がってるとか、「基地にトイレをつくっておしっこしたい」とか、「虫を食べたい！」とか。 ルールのない自由な遊び場に関わる人間の醍醐味だと思えますが、根気、やる気、楽しむ気、経験、知識、常識、交渉力、話し方、など総動員するので大変なことだと思います。自分はどちらかというとユルい方なので、時には嫌われても止めることも必要だと思ったことも何度もあります。 他スタッフとの擦り合わせや振り返りも労力がいるけれども大切だと思います。</p>
<p>ののプレは火は使えますか。</p>	<p>3つのプレーパークとも火の使用はできます。ののプレのみ近隣との約束で通常は炭火です。</p>
<p>ミッションを考え直したときはどういうメンバーですか。</p>	<p>スタッフ全員（13人）で考え直しました。逆に言えばスタッフだけで決めました。</p>
<p>スタッフ自ら遊んではいけないのか。</p>	<p>スタッフが遊ぶのはいけないと思います。子どもの遊びの邪魔になる可能性があるという視点なのではないか。 スタッフがなにか仕掛けることで、手持ちぶさたに見える子が遊びに入っていくとか、他の子とつながっていくこともある。 それについても手放しでよいとは言えないし、ただ座って見守っていればよいわけでもないし、だんだん相手にしてもらえなくなるし、プレーパークむさしの現場でも遊び場の状況や人によって違うのでいつも話し合うことです。</p>

	「関わりすぎ」とか「放っておけばよいのか」といった言葉がよく飛び交っています。
こどものやりたいを応援、大人発信はなしですか。	「滑り台ここにつけたいんだけど」「池掘ろうと思う」など、遊び場はいつもなにか起きているのが楽しい考え、スタッフが仕掛けることは多いです。 もちろん子どもからスカされることもあるし、のってくる子がいるときもあります。 遊具設置含めとにかく色々やってみるのは大切だという話をしています。 逆にスタッフ以外、地域の大人の人たちを巻き込んでいくのはこれからの課題と思います。
つながりたいけどつながれない子どもはいますか。	遊び場での個別的な対応として、「スタッフ誰でもいいから、あの子とつながる」というミッションを持って動くこともあります。しかし来なくなってしまう子もいます。プレーパークのなかでの居場所づくりにも沢山の課題があります。
不登校の子どもへの対応で特別気を付けていることはありますか。	「プレーパークは学校とは別。午前中でもいつでも、学校に行かないで来ても大丈夫」ということはしっかり伝えたほうが良いと考えています。 学校に行っている子たちにも、学校とは違う、そういう場所であるということを伝えることを意識しています。
・不登校の子どもたちへの新しい委託事業にかかわっているのですか。	基本的には代表理事が対応し、ほかスタッフが夕食会や遠足に勤務することもあります。
問題を抱えている子がよく来るという話に興味がある。市との連携は具体的にどのように？	児童青少年課、子ども家庭支援センター、児童相談所との情報の共有や児童の把握、ケース検討会議への出席などを通して、必要と判断した支援を個別に行っている。 また遊び場では支援事業につなげることができるよう、居場所づくりも行っている。
昨年からはまったという支援事業（夕食会・遠足）について詳しく聞きたい。	プレーパークには、さまざまな生きづらさを抱えた子や若者がやってくる。彼らに対して代表理事が個人として市との連携のもと一定の支援を行ってきたが、2018年度より事業化した。内容は月2回の夕食会と年間を通しての遠足、その他居場所づくり。

(Ⅲ) 国分寺市プレイステーション 奥富裕司氏の回答

質 問	回 答
【子どもとのかかわり方】	
子どもが調子によって暴言を吐くとき、どう	程度にもよりますが、カッとなったまま言い返した

<p>対処しますか。</p>	<p>り、やられた事をやり返したくなる事は、私にも勿論あります。しかし出来る事ならそれ以外の、より安全な選択肢を持ち合わせていたいと思うのです。それは、どんな子どもにも「出来る事なら安心して生きて欲しい」と願うからです。</p> <p>自分が反射的にネガティブな感情になった時は、相手を非難したり攻撃したりする前に、まず自分の気持ちに目を向ける事が重要です。言うほど簡単ではありませんが。</p> <p>そうして自分の感情を受け入れしっかり理解する事は、「子どもが暴言を通して本当に言いたかった事」をより冷静な目で見抜く余裕を生み、それらを周囲の大人に解説する勇気と知恵が湧いてきます。</p> <p>私はこの手順を少しづつでも身につけるために、NVC(Non violent Communication)というフレームワークを振り返りに取り入れています。</p>
<p>子どもがけんかを始めたらどうしますか。</p>	<p>暴力はもちろん望ましい行為ではありませんが、その子ども達にとっては感情を表現するための唯一の手段だったかもしれません。</p> <p>子どもの情動に直面した時、私は何よりも先ず彼らの感情を尊重したいので、怪我をしないように目を配りながらも、動向を見守ることがあります。</p> <p>とはいえ、その時の状況や喧嘩の内容、本人の能力によっては共に感情の言語化を試みたり、他の遊びに移行するきっかけを作るなどの工夫を試みる事もあります。</p> <p>また、状況によっては「喧嘩はやめさせるべき」、「大人が介入して適正にジャッジすべき」など、いわゆる"べき論"に支配されてしまう局面もあるでしょう。そんな時こそ、それで思考停止してしまうのではなく「あの子が怒りを爆発させてまで必要としていたものはなんだったのか?」、「(喧嘩を止める事で)彼等は何を失ったのだろうか?」と、(出来れば居合わせた人と共に)考えたいものです。</p> <p>つまり、ここでも「"喧嘩を辞めさせる"以外にもしっかり選択肢がある」ということを大事にしています。それは子どもを決めつけない為にも必要な事です。</p>
<p>肯定的なまなざしをもてなかったエピソード。</p>	<p>たくさんあります。例えばプレイリーダーを始めて3、4年経った頃の事です。数人の高学年男子達が、毎</p>

	<p>日のように他の子に喧嘩を売ったり、人の物を盗んで破壊するなどのトラブルを起こす日々が続きました。</p> <p>私は、彼らが施設に寄付された大量の漫画を片っ端から引きちぎって凄惨な山を築いたことや、幼児達が大切にしていたミニカーを次から次へとハンマーで叩き壊してゲラゲラ笑っていたりするのを見かねて、全員並ばせて怒鳴りつけた事があります。</p> <p>その結果、子ども達には「コイツ怒ると怖い」と印象付けることになり、私に「もっと怒って欲しい」と期待していた同僚や利用者からは「やっとやってくれた」と安堵のような意見を聞きました。</p> <p>しかし、この方法では自分の怒りを情動的に吐き出して、かつ子どもを制圧することはできても、彼等に私が怒鳴った理由を深く理解してもらったり、彼らの素行の裏にある真のメッセージを私が深く理解することにはなりませんでした。</p> <p>彼等一人一人が、本当は何が言いたかったのか。それを解ろうともしなかった事を今ではとても残念に思い返します。</p> <p>「私を怒らせると怖いぞ」と胸を張る人もいますが、しかし、大人がその威力によって子ども達を屈服させること自体は、決して誇れる行為ではありません。</p>
<p>言葉かけを失敗したときの修復方法。</p>	<p>具体的な修復方法でいうと私の場合、NVC(NonViolent Communication)という手法を基に、“自分にどんなニーズがあって、そのような言葉かけをしたのか？”をまず自分で理解できるようにします。</p> <p>もし子どもを傷つけてしまったとしても、“子どもはどう感じたのか”、“それは何故(その子はどんなニーズを持っていた)か”を紐解くのは、意外かもしれませんがその後の方がスムーズです。</p> <p>例：「僕は君が成長することが楽しみだったので、期待のあまり”頑張れ”と声をかけた」「しかし君は気楽にやりたかったので、それを重荷に感じたんだね」</p> <p>私の誤った声かけが、私のどんなニーズから生じたのか説明する事で、子どもに背負わせかけた重荷を自分で背負い直すことができます。</p>
<p>子どもとの信頼関係を築く上で大切にしていること。</p>	<p>相手に自分のことを理解してもらおうとする事よりも、自分が子どものことを理解するために尽くすことで</p>

	<p>す。”子どもへの理解を尽くす”というのは、全身で子どもを観察し、耳を傾けるという事だと思います。これは、遊び場を共に作る地域の人々や保護者、仕事仲間達にも同じ事がいえます。</p> <p>「相手を理解すること」と簡単に言いますが、しかしその為には、自分への執着(自分ではなく、他人に自分を理解してもらおうとすること)を手放す必要があります。そうして自分からのしがらみを解除して相手に尽くすには、やはり十分に自己一致しているという土台が必要なのです。</p> <p>というわけで、ここでもまずは自分を理解する事、もっと言えば、自分の事すら理解してない事に気づく事を大事にしています。</p>
<p>子どもとの間合いについて。遊び相手？何かを教える人？見守る人？</p>	<p>友達のように連絡を取り合ったり約束をしたりする事もあれば、特に遊びに関しては直接教わる事などもたくさんあります。間合いは子どもによって全く違います。</p>
<p>自分が子どもたちに何かしたことでその子に変化があったような体験があれば教えてください。</p>	<p>その子の変化を期待してやった事ではありませんが、家から逃げてきた子どもを抱きしめて</p> <p>「必死だったんだね。頑張ったなあ」と言った時、いつもヘラヘラしていたその子は初めて慟哭しました。彼にとって、自分の居場所を手に入れる瞬間だったのかもしれない。</p>
<p>子どものやりたい気持ちをバックアップするときどこまで介入するか、基準はありますか。</p>	<p>子どもごと、フェーズごとに違うので、基準はありません。よく観察し、「子どもが自分でやりたがっている」と見極める事ができれば最良です。</p>
<p>子どものありのまま、やりたいことをどこまで許しますか。</p>	<p>その子どもの世界を逸脱しない範囲で、その子がやりたいと思う事は、基本的に全て認め得るものと私は考えます。それは、子どもは自由に振る舞えるが、その代わり”その子の能力や状態、取り巻く世界を逸脱しない範囲で”という制限がつく、という事です。</p> <p>例：チェーンソーは貸せないが、その子の能力によっては小刀くらいは貸しても良い。</p> <p>例：1000万円は使わせられないが、千円くらいならどう使っても良い。</p> <p>”その子の世界を逸脱しない範囲”というのは結局のところ、その子に関わる大人にしか判断出来ません。何故なら子どもは、世の中の常識も自分の力の限界もまだまだ</p>

	<p>だ知らないでしょうから。</p> <p>したがって、「子どものやりたい事をどこまで許すか？」という問いの答えは「私はその子のやる事に対して責任もてると思うところまで」です。</p>
<p>やってはいけないことの基準はありますか。</p>	<p>質問の答えになっているかわかりませんが、大抵の犯罪行為（人殺し、いじめ、万引き）や、それに準ずると私が判断した行為（多対1で友達を攻撃する事、小学生がエロ dvd を持ってきて皆でみる事、他人や自分の身を危険にさらす事）は”やってはいけない事”と論しつつ、しかし彼らが子どものうちにしたことは、基本的に全て最後には水に流されるべきだと思います。</p> <p>なぜなら、子どもには”いったい何が悪いことなのか”を判断する能力がまだまだ備わっていません。</p> <p>だからこそ、彼等は失敗から学ぶ権利があり、だからこそより自由でいる必要がある、と私は主張するのです。</p> <p>結局のところ、これもまた”基準は私”という事になります。</p>
<p>「あぶない」との付き合い方。</p>	<p>上記と同様の考え方の上で、周辺環境や個別の能力などの条件を鑑みた上での判断になります。</p>
<p>【プレイリーダーとして】</p>	
<p>今日は遊びの気分でない、という時はありますか。どうやって気分を盛り上げますか。</p>	<p>無理に気分を盛り上げようとは全く思いませんが、遊びの気分ではない時はきっとあまり元気がない時ですね。そういう時は自分の気持ちに寄り添えと、徐々に元気が湧いてくるものです。その上で、やはり無理はしません。</p>
<p>プレイリーダーの育成方法について、どのようにしてほしいですか。</p>	<p>まずは自分と向き合うことです。全てはそれからです。</p> <p>自分と向き合う方法については沢山研究されています。これを応用しない手はありません。</p> <p>自分と向き合う、そして寄り添う事など、当然常に行っているという人もいれば、大変苦勞している人もいます。また逆に「そんなこと大して必要ない。我が強い奴になるからかえって迷惑だ」などと考える人もいます（なぜそう考えるのか非常に興味がありますが）。私に言えるのは”人は自分のことすらよく分かってない”ということです。子どもたちにも、スタッフにも自分にも、「まずは自分を理解し、しっかり受け入れてほしい。」と考えます。この部分を蔑ろにした研修や方針に何度か立</p>

	<p>ち会ったことがあります、明確に反対します。それでは人は育ちません。</p>
「自由」とは？（小2男子から聞かれた）	<p>自分の行動を自分の意思で選ぶ事です。</p>
【奥富さんへ】	
「自信とは何だと思っていますか？」	<p>僕は10数年前に、ある心理学者が著作の中で「根拠がないものが真の自信である」と書いている事に衝撃を受けました。今では「根拠のない自信」という言葉は、わりといろんなところで聞くことができます。</p> <p>この言葉自体は真理だと思っていますが、一方で大きく意味を取り違えるケースもあるようです。根拠なく「俺には絶対の自信があるからね！」などと触れ回る人は一見"根拠のない自信"を持っているようですが、わざわざ声を大にして他人に印象づけようとしている節もあります。もしそうであった場合、この人物は他人からの承認を根拠にしています。根拠を求めている事に気づかないケースというわけです。</p> <p>したがって今回の講演では、そこから一步踏み出して「"条件付きの自信"の正体は優越感である」というお話をしました。自信の正体については、各々で言語化するのが良いと思ったのです。</p> <p>しかし、講演の直後に「"自信=安心"である」と教えてくださった方がいらっしゃいました。その通りだと思います。これに刺激を受けて、僕も再度自分なりの言葉で考えてみました。</p> <p>ご質問への答えは「自信とは、自分への深い共感(もしくは理解)」です。言葉遣いに違和感を感じるかもしれませんが、これは「自己一致」とも言い換える事ができます。</p> <p>子どもは本来、その情動に任せて生きる事(悲しい時に泣き、楽しい時に笑う事、頭に來たら怒る事)ができます。彼等がやりたいように夢中で遊べたならば、自己一致などという言葉自体、本当は必要ないのじゃないでしょうか。</p>
face to face から side by side に視点を交えるのは難しいが、何か意識していますか。	<p>自分に余裕がないと face to face、いわゆる"真に受ける"とか"反動的"になりがちです。これは自分の中で起きている事なので、ここから視点をかえるには、なによりもまず自分と向き合う事が必要です。</p> <p>自分自身の気持ちに side by side、すなわち寄り添えるようになると、他人にもそれができるようになると考えます。</p>

	<p>どんなに自己犠牲的で崇高な仕事でも、自分の気持ちを蔑ろにしているようでは実質何もし得ない、形だけ、という話です。僕達はそんなに立派じゃありません。</p>
<p>子どもが評価を気にしているなど感じたときどう接しますか。</p>	<p>子どもの承認欲求が強い事自体は自然な事だとおもいます。まずは評価を気にしている子どもを観察し、気持ちを考え、できれば共に遊び、共感しようと思います。そして機会があれば、評価はそんなに気にしなくて良いんだよ、と何らかの方法で伝えたいと思います。</p>